



第2期 名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略

[令和6年度の取組]

名 張 市

令和7年7月

第2期 名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略

[令和6年度の取組]

- 1.総合戦略の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P3
- 2.名張市総合計画と総合戦略の体系図・・・・・・・・ P4
- 3.名張市の近年の人口等の動き・・・・・・・・ P5
- 4.令和6年度の実績について・・・・・・・・ P13
- 5.第2期「名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の総括・・・・・・・・ P27
- 6.なばり新時代戦略（デジタル田園都市構想総合戦略版）の取組と今後の方向性・・ P28

1. 総合戦略の概要について

1. はじめに

平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、地方創生と人口減少社会の克服に向けた取組の一体的な推進を図ることを目的に、同年12月「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されました。これを受けて、本市におきましても、「名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成27年に策定、その後、切れ目のない取組を進めるため、令和2年3月に「第2期名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、各種施策について横断的・戦略的な推進を図り、地域課題の解決と活性化に取り組んでまいりました。

昨年度には、第3期の総合戦略として、「なばり新時代戦略（デジタル田園都市構想総合戦略版）」を策定し、できるだけ人口減少を食い止めるべく「人口減少を和らげる施策」と人口減少になった場合においても持続できるまちを目指す「人口減少を見据えた施策」の2つの施策に分けて人口減少社旗を見据えた施策を実施していきます。

総合戦略の推進に当たっては、成果を着実に上げていくため、成果指標の達成状況を基に事業の推進・効果等について効果検証を行い、PDCAサイクルにより見直しを行うとともに、新たな総合計画「なばり新時代戦略」とも連動しながら、今後の施策展開を図ります。

この報告書は、令和6年度の実績に基づく効果検証をまとめたものであり、今後、市ホームページ等により公表します。

2. 効果検証の方法

庁内での内部評価とともに、民産学官金労言の分野における外部委員で組織する「名張市地域活力創生会議」や市議会から、ご意見・ご提言をいただき、今後の施策展開や取組の改善につなげていくこととしています。重要業績評価指標（★）の達成状況に加え、総合戦略に係る取組や成果等を報告し、公開により意見聴取を行います。

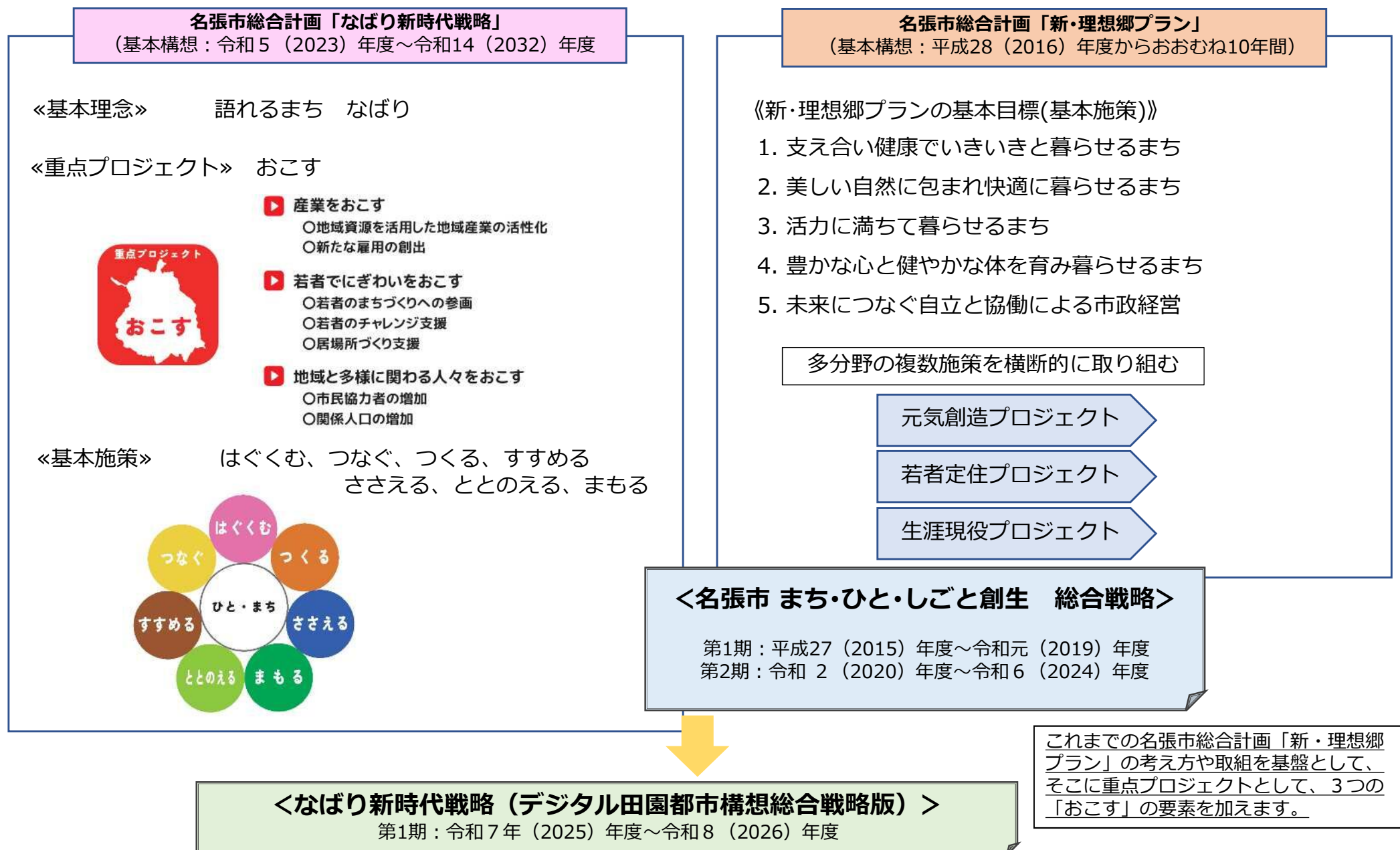
（★）重要業績評価指標（KPI）：Key Performance Indicatorの略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいいます。

名張市地域活力創生会議メンバー（実施日時：令和7年7月10日）

※敬称略

氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
市村 京子	ハローワーク伊賀 （伊賀公共職業安定所）	大森 尚子	赤目まちづくり委員会	奥田 春菜	名張近鉄ガス株式会社
神崎 和也	北伊勢信用金庫 名張支店 （金融団幹事行）	北川 裕之	名張市長	北森 仁美	F l a t b a s e
久木田 照子	株式会社 毎日新聞社 名張支部	小林 慶太郎	四日市大学	田中 和幸	近畿大学工業高等専門学校 総合システム工学科
丹下 剛一	株式会社ネクスト・ワン	山本 みゆき	名張商工会議所		

2. 名張市総合計画と総合戦略の体系図



3. 名張市の近年の人口等の動き

(1) 人口及び世帯数の推移

各年10月1日

	人口総数 (人)	年齢階層別 (人) ※ () 内は構成比			世帯数 (世帯)
		0～14	15～64	65～	
令和4年	75,031	8,701(11.6%)	40,369(53.8%)	25,375(33.8%)	31,793
令和5年	74,087	8,400(11.3%)	39,618(53.5%)	25,483(34.4%)	31,844
令和6年	73,033	8,070(11%)	38,867(53.2%)	25,510(34.9%)	31,890

▶令和6年の高齢化率は、名張市34.9%、三重県30.9%、全国29.3%

(2) 人口動態の推移

※名張市統計書より（各年1月1日～12月31日）（単位：人）

	自然増減			社会増減		
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減
令和4年	373	919	△546	2,160	2,360	△200
令和5年	367	973	△606	2,053	2,434	△381
令和6年	301	1,020	△719	2,114	2,419	△305

▶新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和4年以降の出生数が大きく減少

(3) 年齢階層別 転入者数・転出者数の推移

※名張市統計書より（各年1月1日～12月31日）、令和5年は住基データによる速報値です。

	転入 出別	計	年齢階層（歳）					
			0～14	15～29	30～39	40～49	50～64	65～
令和4年	転入	2,202	239	857	465	232	227	182
	転出	2,381	218	1,053	479	269	196	166
	差引	△179	21	△196	△14	△37	31	16
令和5年	転入	2,103	225	782	444	261	207	184
	転出	2,446	186	1,063	519	301	209	168
	差引	△343	39	△281	△75	△40	△2	16
令和6年	転入	2,149	182	768	471	281	247	200
	転出	2,432	169	1,065	529	275	206	188
	差引	△283	13	△297	△58	6	41	12

(単位：人)

▶15～29歳は転出超過が拡大傾向

(4) 年齢階層別（日本人・外国人別） 転入者数・転出者数の推移

(単位：人)

	国籍別	転入 出別	計	年齢階層（歳）					
				0～14	15～29	30～39	40～49	50～64	65～
令和4年	日本人	転入	1,797	216	634	355	199	213	180
		転出	2,065	206	905	375	235	179	165
		差引	△ 268	10	△ 271	△ 20	△ 36	34	15
	外国人	転入	405	23	223	110	33	14	2
		転出	316	12	148	104	34	17	1
		差引	89	11	75	6	△ 1	△ 3	1
令和5年	日本人	転入	1,667	186	562	343	202	190	184
		転出	2,050	161	893	409	226	195	166
		差引	△ 383	25	△ 331	△ 66	△ 24	△ 5	18
	外国人	転入	436	39	220	101	59	17	0
		転出	396	25	170	110	75	14	2
		差引	40	14	50	△ 9	△ 16	3	△ 2
令和6年	日本人	転入	1,666	156	547	328	215	225	195
		転出	2,093	153	922	405	232	196	185
		差引	△ 427	3	△ 375	△ 77	△ 17	29	10
	外国人	転入	483	26	221	143	66	22	5
		転出	339	16	143	124	43	10	3
		差引	144	10	78	19	23	12	2

▶新型コロナウイルス感染症による出入国規制緩和を受け、令和4年以降は外国人の転入超過傾向が継続

(5) 合計特殊出生率（★）の推移

	全国	三重県	名張市
令和3年	1.30	1.43（全国順位19位）	1.38（県内17位）
令和4年	1.26	1.40（全国順位19位）	1.20（県内23位）
令和5年	1.20	1.29（全国順位26位）	1.20（県内18位）
令和6年	1.15	—	—

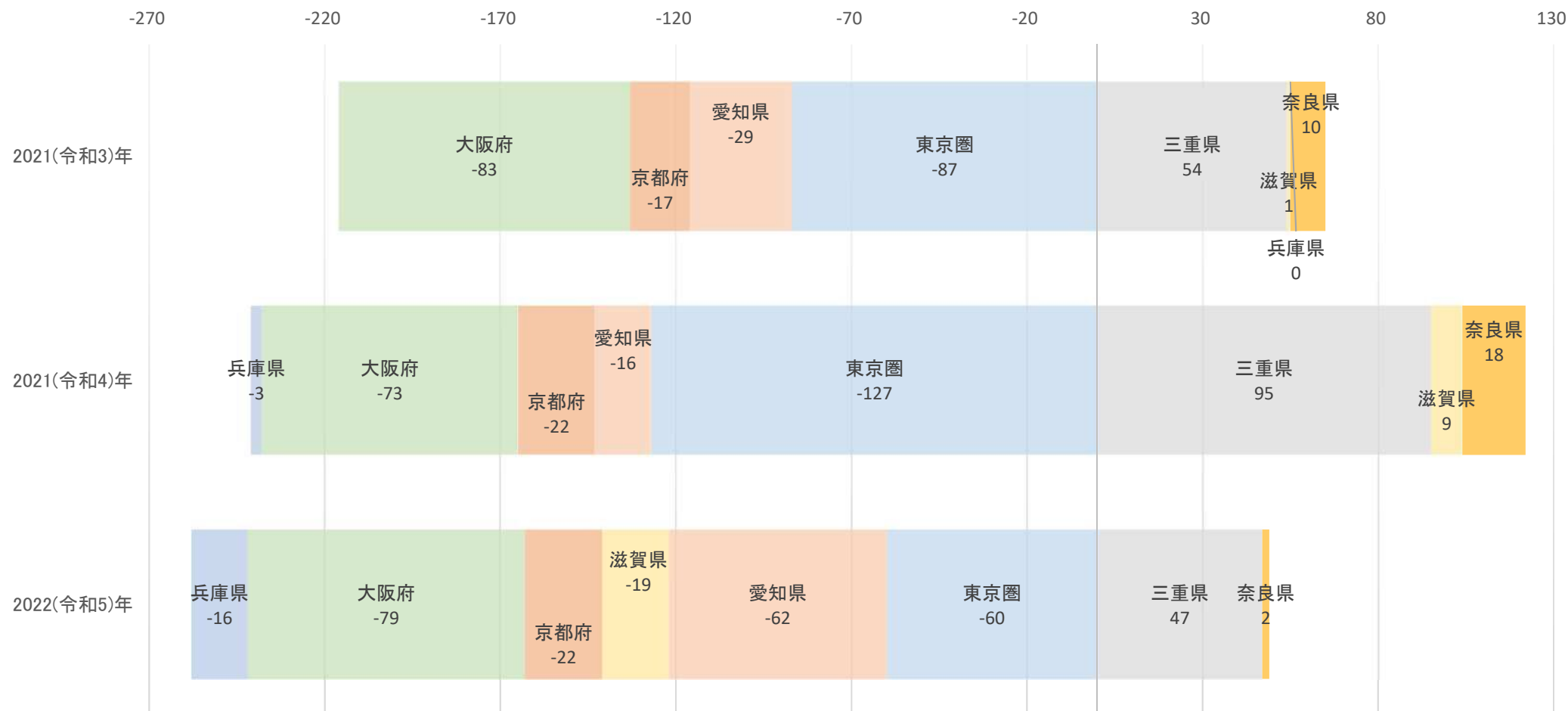
※県伊賀保健所年報データより

（★）合計特殊出生率：15～49歳の女子の年齢別出生率を合計したものです。一人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの平均子ども数に相当します。

▶近年、全国、三重県、名張市の全てで合計特殊出生率は減少傾向

(6) 転入・転出状況

(単位：人)

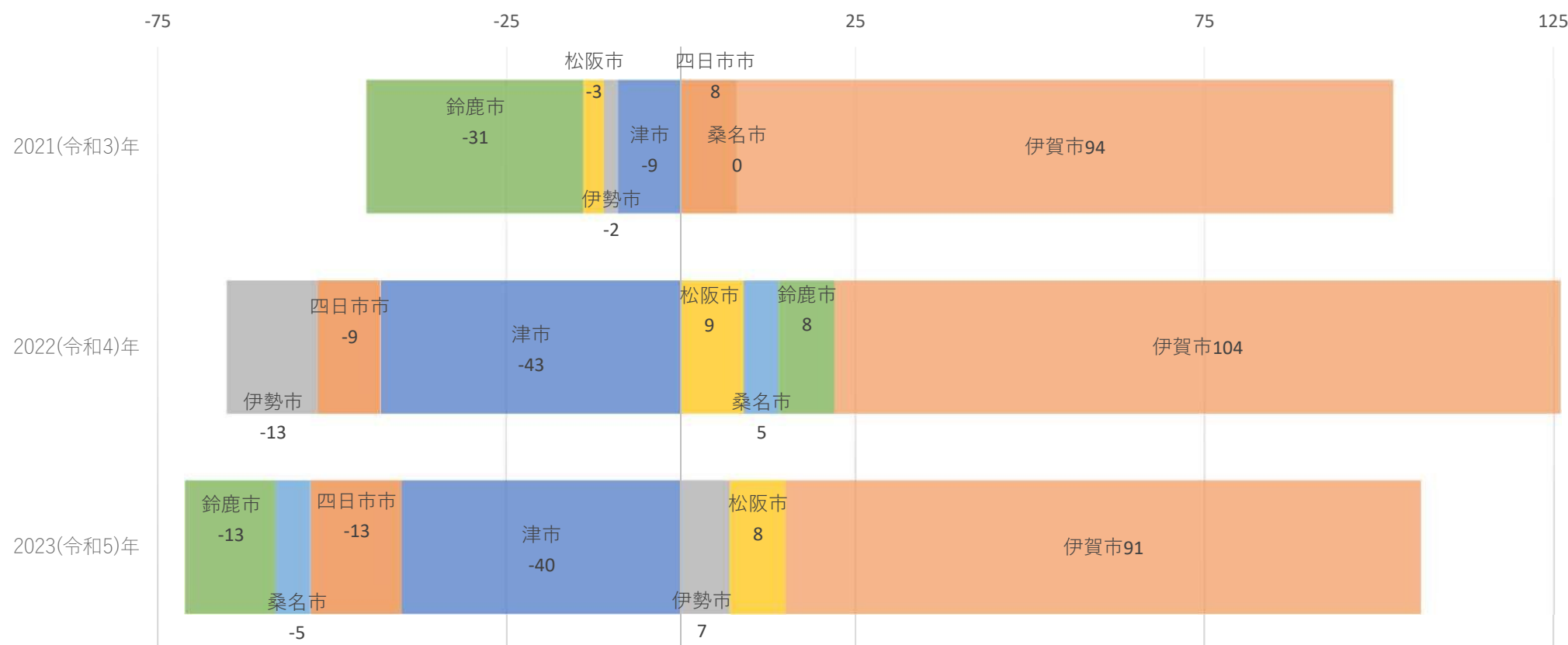


※総務省統計局 住民基本台帳データ「e-Stat」より ※このグラフは「転入者」と「転出者」の差を表しています。

- ▶ 三重県内からの転入超過傾向が継続
- ▶ 近年は奈良県から転入超過傾向

(7) 県内他市町村別の転入・転出状況

(単位：人)



※総務省統計局 住民基本台帳データ「e-Stat」より ※このグラフは「転入者」と「転出者」の差を表しています。

▶近隣の伊賀市から転入超過傾向が継続

(8) 移住・定住の取組による市外からの移住者数の推移

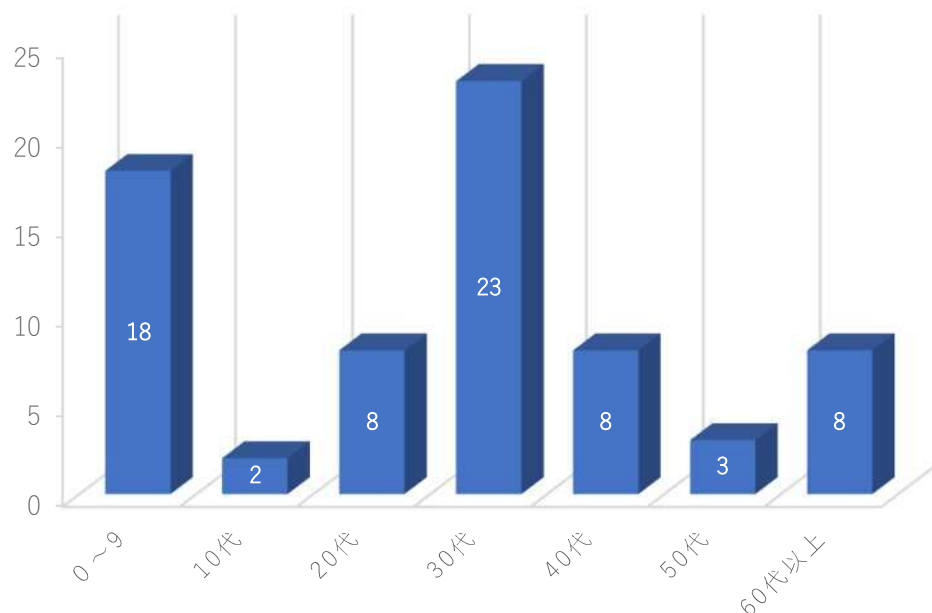
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
世帯数	35世帯	48世帯	37世帯	34世帯	154世帯
人数	85人	87人	73人	70人	315人

▶ 令和6年度の移住数は70人で減少傾向

(9) 移住者の内訳（年齢別）

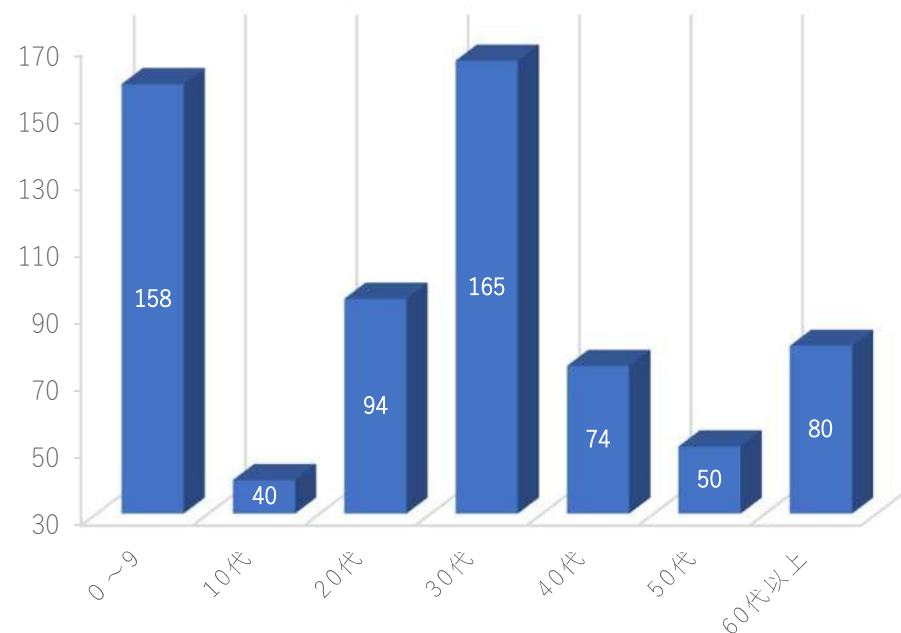
＜令和6年度＞

単位：人



＜平成28～令和6年度＞

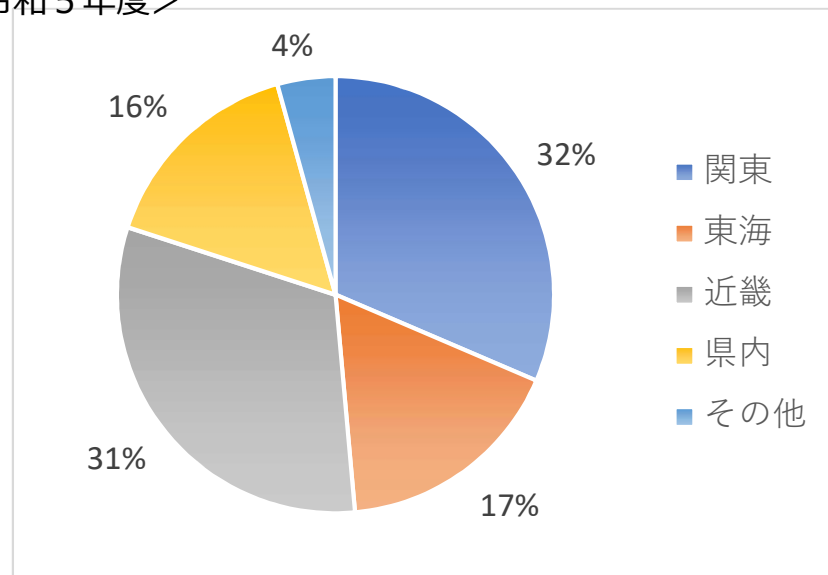
単位：人



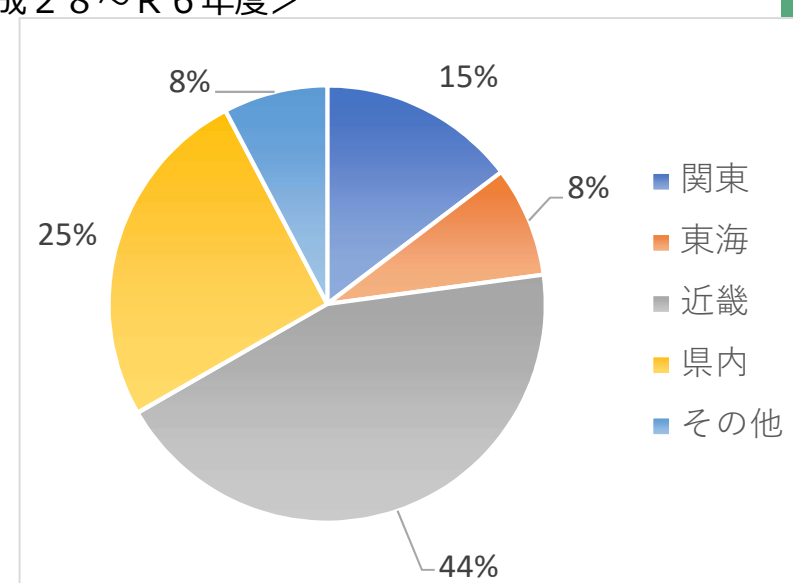
▶ 令和6年度は、過去数年と同様に10歳未満、20代、30代と子育て世帯の移住が多い

(10) 移住者の内訳（出身地別）

<令和5年度>



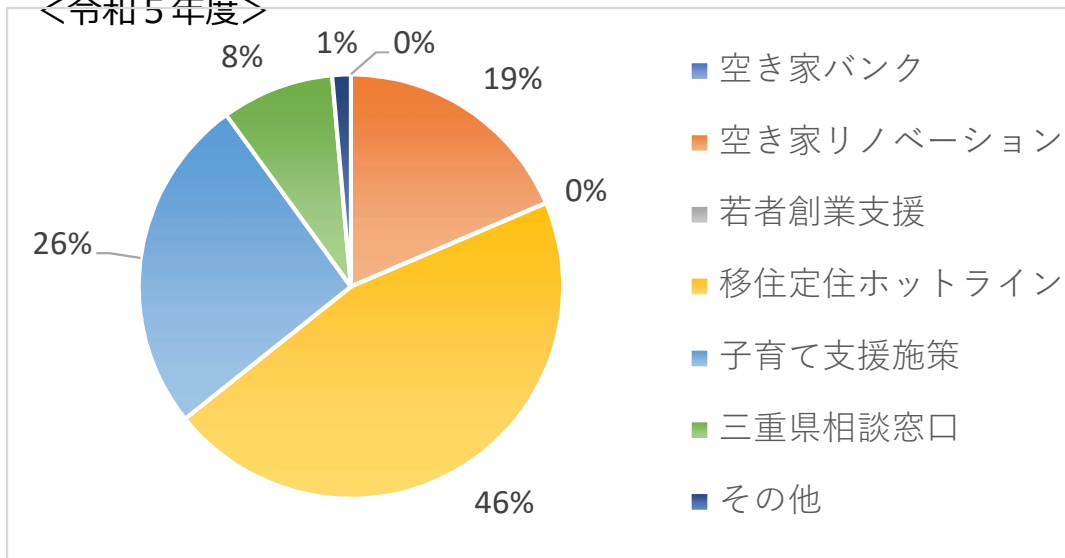
<平成28～R6年度>



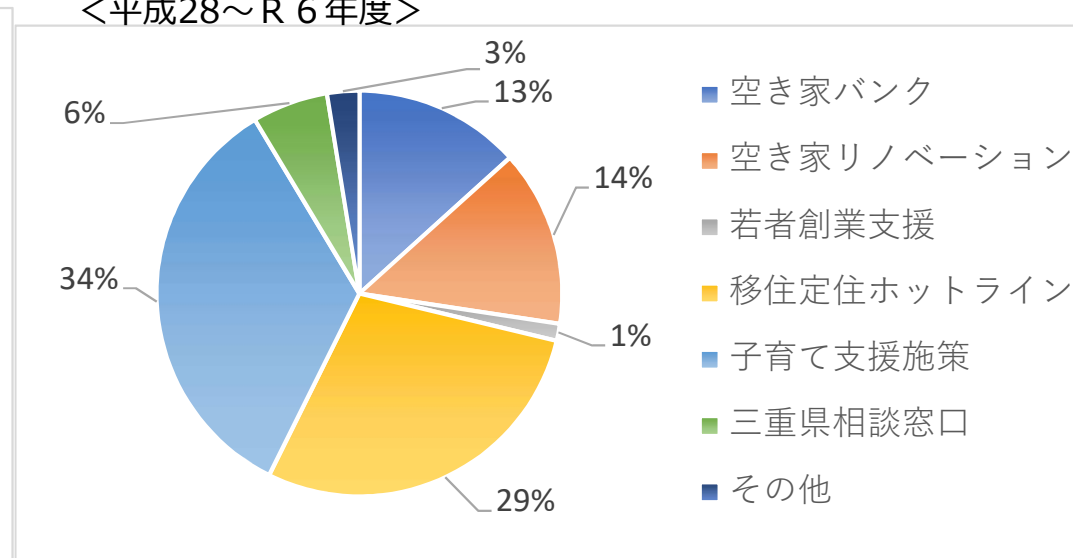
(11) 移住者の内訳（施策別）

▶9年間の取組で三重県内及び近畿エリアからの移住者が約70%を占める

<令和5年度>

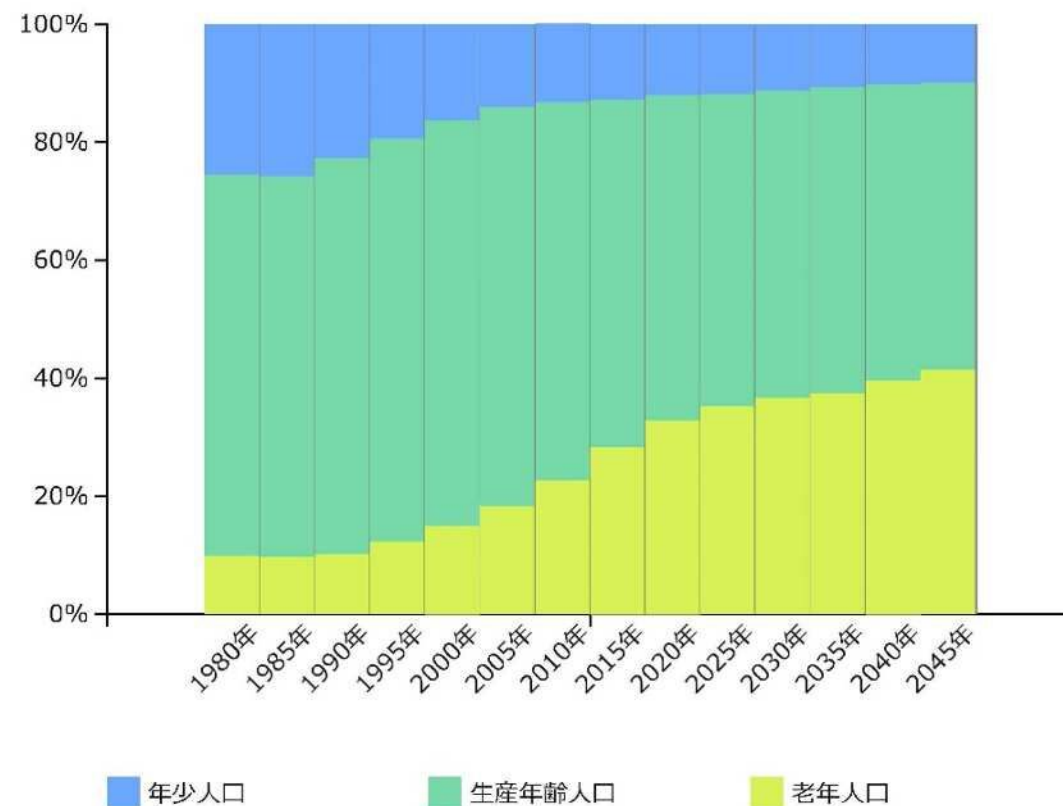
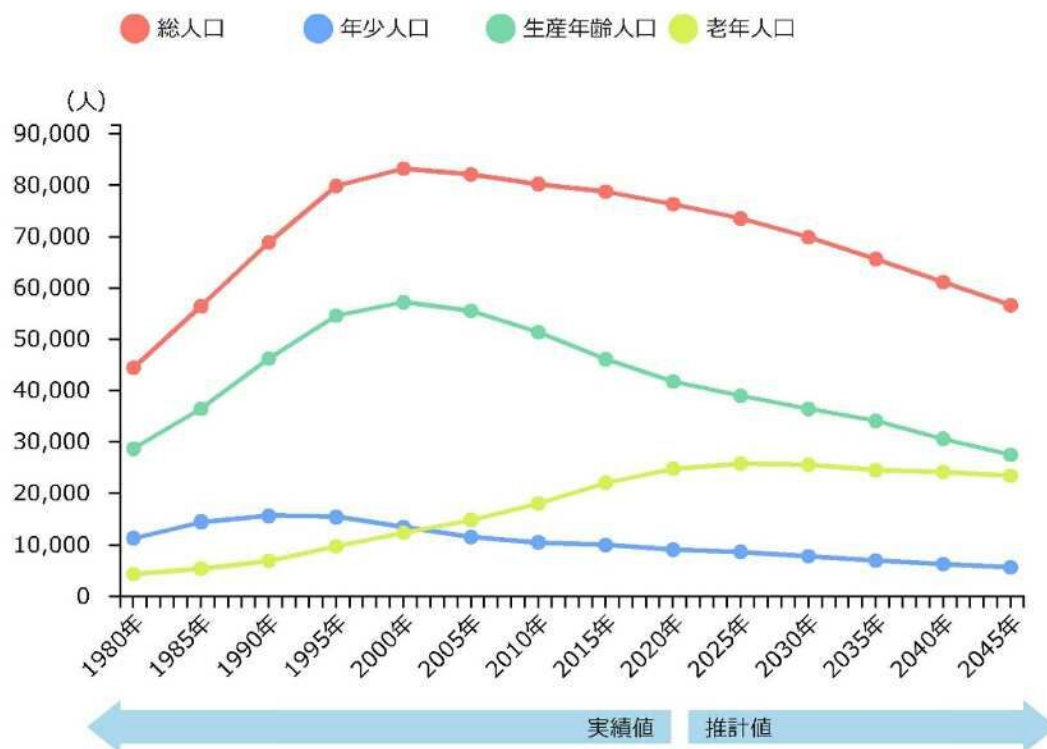


<平成28～R6年度>



▶9年間の取組では、移住定住ホットラインと子育て施策を通じた移住割合が6割超

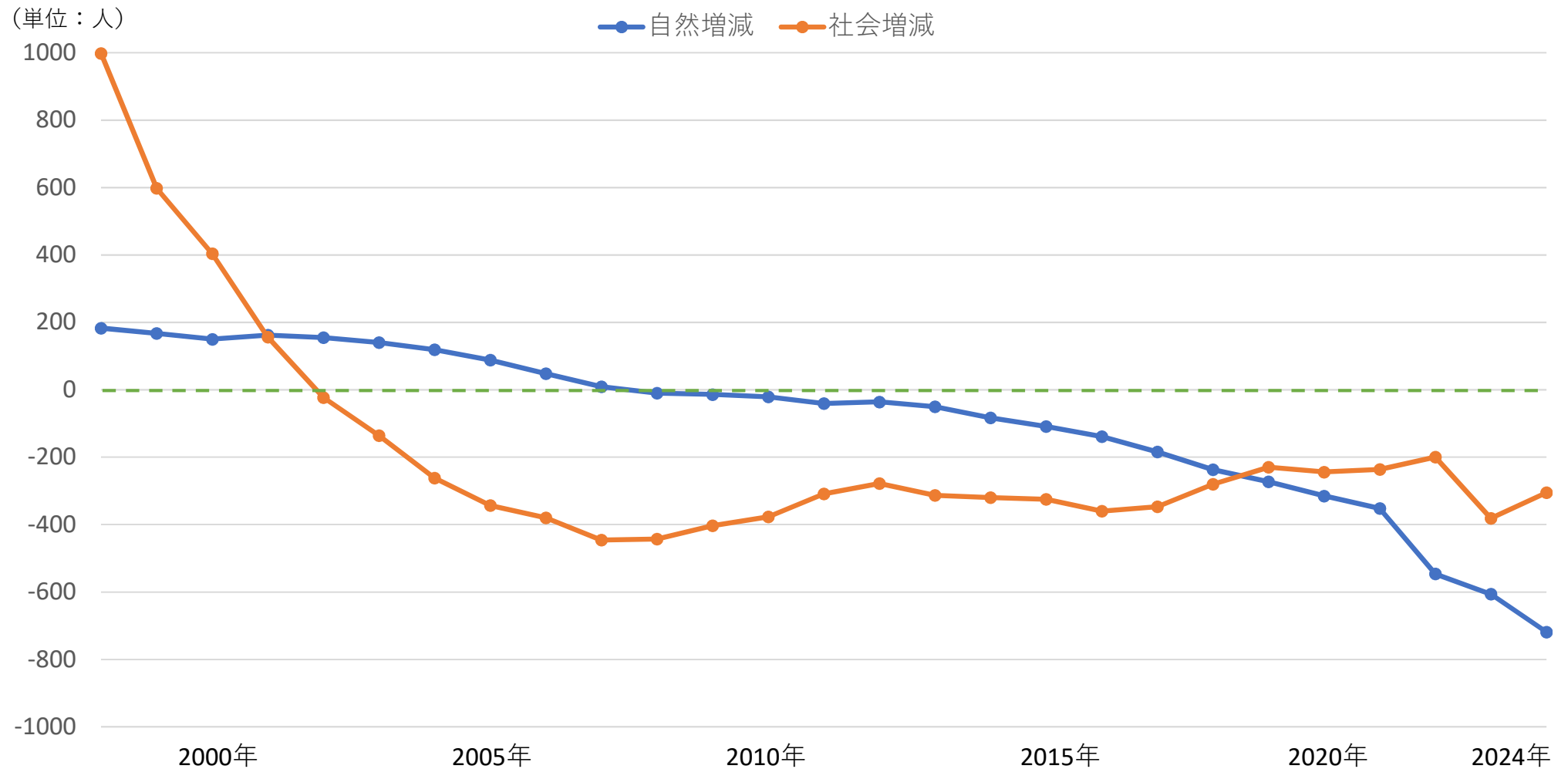
(12) 名張市の総人口・年代別人口の推移



【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

第1章 人口ビジョン

10. 名張市の自然増減と社会増減の推移（グラフ）



名張市統計資料より

【出典】 都道府県：厚生労働省「人口動態調査」、総務省「住民基本台人口移動報告年報」
市区町村：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

【注記】 都道府県：2013年までは日本人のみ、2014年以降は外国人を含みます。
市区町村：2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含みます。

4. 令和6年度の実績について

1. 元気創造プロジェクト

「基本目標」

新たな産業や雇用の創出により、地域経済の活性化を目指した取組を推進するとともに、地域の元気を支え、将来を担う人材の育成に取り組めます。そして、市民と一つになって様々な取組を続ける名張の元気と活力を全国に発信し、人や企業から選ばれる、活気に満ちたまちの実現を目指した取組を進めます。

数値目標	基準値	実績値			目標値	進捗率
		R 4	R 5	R 6		
働く意欲のある人にいきいきと働ける場が確保されていると思う市民の割合	35.7% (R3)	33.6%	38.7%	38.9%	38.0% (R6)	目標値達成

「基本的な方向」

- 就業機会の確保と雇用の創出
- 地域産業を担う人材の育成
- 地域産品、地域資源を活用した“名張ブランド”の創出
- 自然・食・歴史・文化などを活用した観光戦略の推進
- シティプロモーションの展開
- 移住の促進と支援

「施策の体系」

- ① なばりの地域資源を生かした新たな産業創出と地域産業の発展
- ② 新しいひとの流れをつくり関係人口創出のための情報発信及び移住に関する相談・受入体制の強化
- ③ 「訪れてよし」「住んでよし」「招いてよし」の観光都市 名張の実現

【重要業績評価指標（KPI）】

① なばりの地域資源を生かした新たな産業創出と地域産業の発展



項 目	基準値	実 績 値				目標値	進捗率
		R 3	R 4	R 5	R 6		
新規事業展開を実施する事業所の件数	53件 (R3)	-	77件	53件	37件	68件 (R6)	基準値を下回る
名張ブランド商品の販路拡大支援件数【延べ数】	5件 (H30)	80件	102件	119件	122件	50件 (R6)	目標値達成
創業・事業継承の件数	27件 (R3)	-	16件	27件	23件	35件 (R6)	基準値を下回る
「人・農地プラン」策定数【延べ数】	3つ (H30)	3つ	3つ	3つ	一※	5つ (R6)	—
新規就農者数 【延べ数】	0人 (H30)	0人	2人	2人	3人	3人 (R6)	目標値達成

※制度改定により策定数なし

② 新しい人の流れをつくり関係人口創出のための情報発信及び移住に関する相談・ 受入体制の強化



項 目	基準値	実 績 値				目標値	進捗率
		R 3	R 4	R 5	R 6		
「まちをよくするために活動したい」又は「まちをよくするために活動している人に感謝したい」と考える市民の割合	35.9% (R4)	-	-	41.2%	43.8%	37.7 (R6)	目標値達成
移住・定住ホットライン相談件数	190件 (H30)	255件	263件	256件	233件	220 (R6)	目標値達成
移住支援制度等を利用した移住者数【延べ数】	169人 (H30)	431人	518人	591人	661人	460 (R6)	目標値達成

③ 「訪れてよし」「住んでよし」「招いてよし」の観光都市 名張の実現



項 目	基準値	実績値				目標値	進捗率
		R 3	R 4	R 5	R 6		
名張市を訪れた人の1人当たりの旅行単価	9,582円 (R3)	-	11,164円	15,808円	13,550円	10,000円 (R6)	目標値達成
赤目四十八滝への延べ観光入込客数	116,922人 (R1)	108,676人	96,319人	109,590人	124,564人	120,000 (R6)	目標値達成
赤目四十八滝渓谷を訪れた外国人数	3,230人 (R1)	1,330人	2,464人	5,563人	5,963人	3,200人 (R6)	目標値達成
赤目四十八滝キャンプ場を拠点に実施した体験観光メニューの件数	0件 (H30)	2件	1件	0件	0件	5件 (R6)	0%

【令和6年度に実施した施策を推進する主な事業と取組概要】 ※事業名の()内は令和6年度事業費

●雇用労働人材確保事業（2,073万円）

※デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）活用事業

令和4年7月、関係9団体による名張市事業承継人材マッチング支援協議会（フミダス）を設立し、承継ニーズの掘り起こしや、承継人材の発掘、承継マッチング事業を展開し、事業所がより長く事業を継続できる仕組みづくりを推進しました。

[令和6年度の主な実績]

- ・事業所のマッチング申出件数 10件
- ・新事業展開支援件数 30件
- ・事業所訪問、実態調査 40事業所

●移住定住創業チャレンジ支援事業（103万円）

自身のスキルや経験を活かし、市内でリーディング事業を創業しようとする移住・定住希望者に対し、創業に係る経費の一部を補助し、起業創業を応援するとともに市内経済の活性化を行いました。

[令和6年度の主な実績]

- ・若者移住定住チャレンジ支援事業（申請6件、採択1件）

●有機農業産地づくり推進事業（239万円）

みどりの食料システム戦略の取組の一環として有機農業を推進し、伊賀市と合同でオーガニックビレッジ宣言を行い、学校給食での試行的活用、有機農産物加工品の試作、マルシェ等を実施しました。

[令和6年度の主な実績]

- ・オーガニックビレッジ宣言
- ・有機農業基礎研修の実施 ・飲食店、学校給食等での有機農産物の試行利用
- ・オーガニックマルシェの開催

●シティプロモーション推進事業（688万円）

まちに愛着を持ち、まちに関わる活動人口を増やし、まち全体の価値を高めていくことを目的に、名張市シティプロモーション戦略実践編（前期）を策定し、市民発のブランドロゴの活用を起点に、シティプロモーションの取組を推進しました。また、移住定住の推進に向け名張らし

さを発信しました。

都市部での移住フェアに出展するとともに、三重県主催による移住者と地域をつなぐ人づくり講座や移住体験ツアー、また、市主催で市内の空き家巡りツアーを実施し、移住につながる取組を行いました。

[令和6年度の主な実績]

- ・市民参加のワークショップの開催 3回
- ・市民PRチーム「まちの広報室」によるSNSを活用した名張市の魅力発信
- ・東京、大阪、名古屋での相談会 8回
- ・市内での見学会や体験ツアー開催 3回
- ・インスタグラム投稿キャンペーンによるシティプロモーションの強化と関係人口の拡大（フォロワー数4,060人 R7.6.23）
- ・令和6年度の移住者数 34世帯70人

●広報活動事業（2,371万円）

名張市広報戦略に基づき、効果的・効率的な「伝わる」情報発信に取り組みました。中でも、広報なばりのA4カラー版へのリニューアルにより、これまで以上に訴求力を高めながら、名張の魅力発信を行いました。また、市公式LINEを活用した「セグメント配信」により、関心のあるテーマや自身の年代等、登録者に合わせた情報発信に加え「広報eモニター制度」を創設し、広聴機能の強化を図りました。

[令和6年度の主な実績]

- ・LINEによる「広報eモニター制度」を導入 モニター数100人

●観光戦略推進事業（3,935万円）

赤目四十八滝の観光再生について、地域力創造アドバイザーに専門的な知見からのアドバイスをいただきながら、官民が一体となり観光地再生の取組を進めました。

[令和6年度の主な実績]

- ・赤目四十八滝の観光地再生のため地域力創造アドバイザーを採用
- ・地域おこし協力隊による観光誘客の推進
（体験プログラムやツアーの企画及び催行など）
- ・なばり観光案内所の運営、HP・SNSを活用した情報発信

●地域観光資源新発見事業（1,235万円）

※観光庁「地域観光新発見事業」補助金活用事業

観光関連事業者と連携し、地域の観光資源を活用した地方誘客に資する観光コンテンツについて、十分にマーケティングデータを生かした磨き上げから適時適切な誘客につながる販路開拓及び情報発信による観光誘客と観光消費の拡大に取り組みました。

[令和6年度の主な実績]

- ・観光コンテンツの造成 3件（赤目滝水族館を拠点としたナイトツアー・苔さんぽ・苔玉づくり体験・地域ぐるみの取組を学ぶ本格的な有機農業体験）

●大阪・関西万博経済循環創出事業（1,019万円）

※デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）活用事業

「観光と食」を基軸にした産業基盤の確立を目指し、官民連携による名張市産業活性化推進協議会を設立し、2025年大阪・関西万博を契機にした観光誘客と観光消費の拡大、更には観光便益を市内に還元していく仕組みの構築により、市内経済の規模拡大と好循環の創出に取り組みました。

2. 若者定住プロジェクト

「基本目標」

若い世代が安心して働き、結婚・妊娠・出産・子育て・教育がしやすい環境の整備に切れ目なく取り組むとともに、暮らしのベースとなる住宅支援や、多彩な雇用の創出などの施策を推進し、若者が住んでみたい、愛着を抱きいつまでも住み続けたいと感じるまちを目指した取組を進めます。

数値目標	基準値	実績値				目標値	進捗率
		R 3	R 4	R 5	R 6		
名張市に「ずっと住み続けたい」「当分の間住み続けたい」「市内の別の地区に移りたい」とする30～39歳の市民の割合	86.0% (H30)	83.5%	75.0%	84.5%	72.8%	88.0% (R6)	基準値を下回る
市内の保育施設や子育てサービス、相談窓口等の子育て支援施策に満足している市民の割合	68.7% (R3)	-	63.6%	68.5%	55.6%	72.0% (R6)	基準値を下回る

「基本的な方向」

- 名張版ネウボラ（★）の推進
- 育ちと学び、人と人をつなげる小中一貫教育の推進
- 子育てしやすい労働環境整備
- 安心・安全な子育て環境づくり
- 病院機能の充実（産婦人科の開設）

（★）名張版ネウボラ：本市では産前産後の支援を強化し、安心して出産・子育てできる環境を整備するために、フィンランドの子育て支援制度「ネウボラ」を参考に、妊娠・出産・育児の切れ目のない相談・支援の場、また、その仕組みを作っています。これを「名張版ネウボラ」と呼んでいます。

「施策の体系」

- ① 産み育てるにやさしいまち“なばり”の実現
- ② 「なばりブランド」としての“ひと”づくり～社会を拓く次世代のための教育の推進～

【重要業績評価指標（KPI）】

①産み育てるにやさしいまち“なばり”の実現



項目	基準値	実績値				目標値	進捗率
		R 3	R 4	R 5	R 6		
妊産婦・乳幼児への支援策に満足している市民の割合	53.6%（H30）	59.3%	62.3%	67.2%	36.7%	56.6%（R6）	基準値を下回る
野外体験保育を導入している教育・保育施設数	1園（R1）	4園	4園	4園	10園	6園（R6）	目標値達成
地域医療機関から市立病院への紹介件数	497件（R3）	497件	461件	459件	503件	550件（R6）	11.3%
市立病院から地域医療機関等への紹介件数	521件（R3）	521件	504件	473件	463件	560件（R6）	基準値を下回る
子育て世帯への空家等流通促進件数【延べ数】	47件（H30）	171件	214件	260件	284件	300件（R6）	93.7%
男女の固定的な役割分担に同感しないという市民の割合	83.4%（R3）	-	83.9%	82.2%	81%	86.7%（R6）	基準値を下回る

②「なばりブランド」としての“ひと”づくり



項目		基準値	実績値				目標値	進捗率
			R 3	R 4	R 5	R 6		
小中学校の教育環境に満足している市民の割合		66.8%（R1）	67.1%	67.0%	66.3%	65.5%	67.0%（R7）	基準値を下回る
ジュニアリーダー養成講座修了者数【延べ数】		22人（H30）	50人	52人	63人	76人	125人（R6）	52.4%
住んでいる地域の行事に「参加している、どちらかといえば参加している」とする児童生徒の割合	小学校（R1）	64.4%	65.6%	56.4%	63.5%	—※	68.0%（R7）	—
	中学校（R1）	48.8%	50.0%	42.4%	44.2%	—※	51.0%（R7）	—

※アンケート内容変更のためアンケートを実施しませんでした。

【令和6年度に実施した施策を推進する主な事業と取組概要】 ※事業名の()内は令和6年度事業費

●名張あんしん出産・子育て応援事業（50万円）

○妊婦にやさしい遠方出産支援事業

伊賀地域内での分娩が困難で、かかりつけの分娩取扱施設が遠方にある場合の分娩時の移動に掛かる往復の交通費及び出産までの間に分娩取扱施設の近くで待機するための宿泊施設の宿泊費（出産時の入院前の前泊分）の助成を行うことにより、妊婦の経済的負担の軽減を図ります。

○妊婦情報事前登録制度

安心して妊娠・出産ができる体制を整備するため、妊婦は出産予定日や母体の状況等を事前登録することができます。出産の兆候が始まり急を要する状態であり、公共交通機関（電車、バス、タクシー）の利用が困難で、親族等の周囲の搬送サポートも得られない場合には、かかりつけの産科医療機関に相談し、医師等の指示の下、救急車を要請します。

○産婦人科・小児科オンライン相談事業

24時間365日いつでも医師（産婦人科・小児科）・助産師にオンラインで相談ができる体制を整備し、妊娠・出産・子育てをより手厚くサポートします。

●名張版ネウボラ事業

まちの保健室等に、看護師等の資格職をチャイルドパートナーとして配置し、母子保健コーディネーター（保健師・スーパーバイザーとしての助産師）と共に妊産婦に対して、きめ細かい相談、支援を行いました。また、産後ケア体制を整備し、地域の子育て支援の充実を図りました。

[令和6年度の主な実績]

・妊産婦・乳幼児に対する相談、支援の実施 ・産前産後のケア体制の整備

●民間保育所等施設整備補助金（西田原こども園整備）（3億6,788万円）

昭和53年建築の西田原保育園について、施設の老朽化が進み、また、進入路が狭あいであることから、令和6年度に移転改築のための費用に対し補助を行いました。

●放課後児童健全育成事業所施設整備事業（5,024万円）

名張小学校区放課後児童クラブの利用ニーズの増加に対応するため、第4クラブ室（定員40人）の整備工事を行い、通常利用やスポット利用の受入拡充を図りました。



●地域医療の連携強化等

24時間365日の小児二次救急を行う「小児救急医療センター」の継続的な運営とともに「伊賀地域二次救急医療に係る意見交換会」を定期的に開催し、3病院での輪番体制による二次救急医療体制の継続確認など、地域における救急医療について協議し、連携強化や医療体制の確保に努めました。

●子ども家庭センター運営事業（608万）

令和6年4月から、妊産婦や乳幼児の保護者の相談に対応する「子育て世代包括支援センター」（母子保健機能）と、様々な心配ごとを抱えたこどもやその家庭の相談に対応する「子ども家庭総合支援拠点」（児童福祉機能）を一体とした「ばりっ子まるまるセンター（こども家庭センター）」を、市役所1階に設置しました。

妊産婦の方や子どもとその家庭が健やかに安心安全な生活を送れるよう、妊娠から出産、子育ての間の様々な不安や疑問、相談を保健師や助産師、児童福祉などの専門職により受け付けている機関です。

●空家リノベーション支援事業（885万円）

市内の空家住宅等の改修工事を実施する移住者に対し費用補助し、自己負担を軽減することで移住を促進しました。また、安心して住み、子育てができる住環境を創出するため、子育て世帯の移住を支援しました。

[令和6年度の主な実績]

- ・空家リノベーション支援事業補助（7戸）
- ・子育て世帯中古住宅リノベーション補助（1戸）

●小中一貫教育推進事業（15万円）

各中学校区で作成した小中一貫教育ランドデザインや推進カリキュラムに基づき、義務教育9年間を見据えた系統性・連続性を確保した一貫した指導の充実を図りました。また、名張市における小中一貫教育推進に係るシンポジウムを開催し、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の意義と進捗状況を報告するとともに、パネルディスカッションを行いました。各中学校区でのこれまでの取組や実践を中心に、子どもたちの姿はどのように変容し、成長したのかを共有し、子どもたちの義務教育9年間の一貫した学びや育ちの更なる充実に向けて考える機会になりました。



●コミュニティ・スクール推進事業（１６８万円）

学校運営協議会の運営の活性化を図り、学校と家庭、地域の連携・協働体制を確立することにより、地域と共にある学校づくりを一層推進しました。学校、家庭、地域が共に知恵を出し合い、地域づくり組織等と連携・協働しながら子どもの豊かな成長を支え、学校が地域コミュニティの絆や生きがいづくりの核となる「名張版コミュニティ・スクール」の充実と更なる推進を図りました。錦生赤目小学校学校運営協議会が錦生地域（旧錦生小学校）と赤目地域（旧赤目小学校）をつなぐ役割を果たしていること等が評価され文部科学大臣表彰を受賞しました。

●ふるさと能文化振興事業（２９９万円）

「観阿弥祭」や「名張子ども伝統芸能祭り」など、能を中心とした伝統文化の振興に関わる事業の開催と、地域の活動団体への支援を行いました。また、交流都市協定を結ぶ豊島区との連携事業として「子ども狂言」が豊島区イベントに参加しました。

●ふるさとなばり推進プロジェクト事業（７７万円）

ふるさと学習「なばり学」創設事業により、平成３１年度に学習資料集上下巻を作成し、令和５年に改訂した上巻を小学１年生、下巻を５年生に配付しました。第二次名張市子ども教育ビジョン後期計画の主な取組の中にも示しており、子どもたちが系統的、継続的に学び、語れるまちなばりを具現化できるよう、中学校区ごとに小中９年間を見通したふるさと学習「なばり学」カリキュラムを編成しました。

3. 生涯現役プロジェクト

「基本目標」

高齢者はもとより、これから年齢を重ねていく全ての方々が社会の中で意欲的に自らの知識や能力を発揮し、いつまでも健康で生きがいをもって、地域社会の担い手として活躍できるまちを目指した取組を進めます。

数値目標	基準値	実績値			目標値	進捗率
		R4	R5	R6		
健康な暮らしを送っていると感じている市民の割合	81.7% (R3)	82.0%	80.0%	81.1%	83.3% (R6)	基準値を下回る

「基本的な方向」

- “健康なばり”の推進
- 世代間交流の促進による地域の元気創造
- 支え合いの地域福祉の推進
- 「達成感」や「連帯感」を育む生涯スポーツの推進
- 多様な生涯学習機会の提供

「施策の体系」

- ①「生涯現役のまち」の実現
- ②時代に合った地域づくりと誰もが活躍できる地域共生社会の実現

【重要業績評価指標（KPI）】



①「生涯現役のまち」の実現

項目	基準値	実績額				目標値	進捗率
		R 3	R 4	R 5	R 6		
生きがいを感じながら、安心して暮らしている高齢者の割合	75.8% (R3)	-	75.2%	75.8%	80.6%	78.4% (R6)	目標値達成
特定健康診査受診率（国民健康保険）	42.4% (H30)	44.0%	44.1%	42.6%	43.9%	60.0% (R6)	8.5%
目的を持って生涯学習に取り組んでいる市民の割合	42.3% (R3)	-	40.3%	42.9%	44.5%	46.1% (R6)	57.9%

② 時代に合った地域づくりと誰もが活躍できる地域共生社会の実現



項目	基準値	実績値				目標値	進捗率
		R3	R4	R5	R6		
人材発掘・人材育成を目的とした協働塾、市民活動支援センター事業等の参加者数	482人 (R4)	-	-	716人	1,074人	600人 (R6)	目標値達成
隣近所や地域の人との交流があると感じている市民の割合	62.9% (R3)	-	62.9%	61.6%	57.6%	66.7% (R6)	基準値を下回る
名張市が「住みよい」「どちらかと言えば住みよい」と感じている市民の割合	82.4% (H30)	85.0%	80.3%	84.7%	76.8%	86.0% (R6)	基準値を下回る

【令和6年度に実施した施策を推進する主な事業と取組概要】 ※事業名の()内は令和6年度事業費

●がん対策事業（1億1450万円）

がんの早期発見、早期治療につなげるため、集団がん検診及び医療機関で実施する個別がん検診を実施しました。

〈各種検診の受診率〉

- ・胃がん 7.3%
- ・肺がん 7.9%
- ・大腸がん 7.0%
- ・乳がん 14.1%
- ・子宮がん 18.5%

●多機関協働事業（735万円）

保険・医療・福祉・介護等関係部署・機関、地域づくり組織や事業所等との連携の強化に取り組みました。

[令和6年度の主な実績]

- ・多機関協働事業
 - 多機関協働の核となる「エリアディレクター」を配置、市内15か所の「まちの保健室」の包括的相談支援体制のバックアップ実施
- ・地域医療つながりサポート
 - 診療のみでは改善しにくい状況で社会生活面の支援、及び、地域における予防健康づくりが必要であると医療機関等から連絡を受けた方への支援 22件
- ・地域の見守り活動に関する協定に基づく見守り協定事業者連携会議
 - 見守り活動の連携状況や課題の共有のため、連携協定を締結している事業者との会議開催
- ・リンクワーカー研修
 - 地域住民及び専門職を対象とした社会的処方考え方を活用した人材育成研修の取組（コミュニティコーピング等）

●地方創生に向けて”がんばる地域”応援事業（１５０万円）

名張ゆめづくり協働塾として、「協働」、「仲間づくり」、「共感」、「共有」の４つのキーワードを軸に、地域の活動人口の拡大を目指した研修やワークショップなどに取り組みました。シティプロモーションと連動して取り組んだ「まち歩き＆マップ作成講座（４回連続講座）」では、参加者がまち歩きにより地域の魅力を再発見するとともに、地域に関心を持つ市民と団体がつながる仲間づくりの場となりました。

このほか、地域づくり組織や活動団体を対象に「クラウドファンディング基礎講座」を開催し、新たな資金調達について学びました。

また、７月に開催した「コミュニティ政策学会名張大会」では、まちづくりについて考えるシンポジウムと５つの分科会を行い、全国の先進事例から学ぶ機会を提供しました。

[令和６年度の主な実績]

- ・まち歩き＆マップ作成講座 ４回連続講座 延べ８３人受講
- ・クラウドファンディング基礎講座 ２４人受講
- ・生涯学習研修会 ５７人受講
- ・地域づくり代表者対象 リーダー研修 ２回 延べ４１人受講
- ・コミュニティ政策学会名張大会 ２日間 延べ７３８人参加

●多文化共生のまちづくり促進事業（１７万円）

文化的背景を異にする人々が共生・協働する社会の構築を推進する事業を行ったほか、災害時外国人住民支援事業を行いました。

[令和６年度の主な実績]

- ・日本語ボランティア講師養成講座 全３回 １９人受講
- ・外国人防災リーダーズ育成研修 １回 ６人
- ・名張外国人防災リーダーズスキルアップ研修 １回 ７人

5. 第2期 名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括

3つのプロジェクトごとに基本目標、重要業績評価指標（KPI）の達成状況を中心に振り返ります。

【数値目標と重要業績評価指標（KPI）の状況】

1.元気創造プロジェクト		計	基本目標	①	②	③	目標値達成状況と結果の分析
目標達成	100%	9	1	2	3	3	全13指標のうち9指標が目標を達成しました。地域産品のブランド化に関する活動指標、移住相談件数などの活動指標及び観光入り込み客数などの活動指標では目標値を大幅に超える結果となりました。 一方で、目標値未達の主な要因としましては、制度改定や施策の方向転換により事業を実施しなかったことなどがあげられます。成果指標2指標がいずれも目標を達成していることから、各指標の取組が評価されたものと捉えられます。
未達成	基準値より上昇したもの	0					
	基準値より下回ったもの	4		3		1	
2.若者定住プロジェクト		計	基本目標	①	②		目標値達成状況と結果の分析
目標達成	100%	1		1			全12指標のうち11指標が未達となりました。基本目標及び各施策の成果指標7指標全てが基準値を下回る結果となりました。特に子育て支援策に関する成果指標が大幅に減少し、子育て世帯を取り巻く状況の変化による不安が影響したと思われます。しかしながら、「野外体験保育を導入している施設数」など4つの活動指標では目標値未達ですが、数値は着実に上昇しており、それぞれの取組が進んでいます。
未達成	基準値より上昇したもの	3		2	1		
	基準値より下回ったもの	8	2	3	3		
3.生涯現役プロジェクト		計	基本目標	①	②		目標値達成状況と結果の分析
目標達成	100%	2		1	1		全7指標のうち2指標が目標を達成しました。基本目標「健康な暮らしを送っていると感じている」割合は基準値を下回ったものの8割以上の数値となっており、高齢化率が上昇している中で市民満足度が維持されています。一方で「隣近所や地域との交流があると感じ散る」割合は年々減少傾向となっており、核家族や共働き世帯の増加による交流機会の減少が主な要因と考えられます。
未達成	基準値より上昇したもの	2		2			
	基準値より下回ったもの	3	1		2		

【総括】

若者定住プロジェクトの基本目標「ずっと住みたい」割合が、これまではおおむね8割超で推移していましたが、今回の市民意識調査の結果では30代の年齢層で11.7ポイントの減少となりました。特に子育て支援に関する2つの成果指標の大幅な減少による影響や、昨年11月の「なばり新時代の大改革宣言」、来年2月の「行財政改革プラン」の公表により、市民の将来への懸念がアンケート結果に反映されたと考えられます。一方で、元気創造プロジェクト、生涯現役プロジェクトでは、目標達成及び上昇した指標が半数を超えていることから、一定の評価がされたと捉えています。

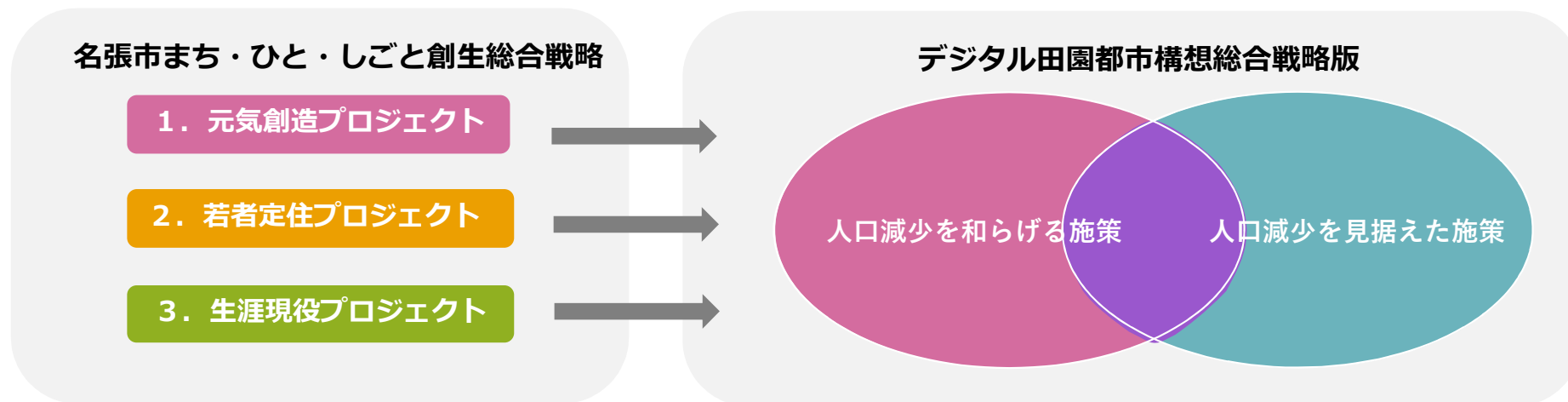
また、人口動態においては、40代で転入超過、0～14歳の年齢層で転入超過となっていること、また、移住施策による移住者数も30代が多くなっていることから、本市が子育て世帯から選ばれていることは、これまでの取組が一定の効果をもたらしていると考えられます。一方で、10代20代の転出超過が継続しており、進学、就職を機に市外へ転出することの大きな要因であると考えられます。

若者流出を抑制するために、若者の活躍の場として雇用創造、子育て環境、地域への愛着を育む取組など、本市のこれまでの取組について改善を加えながら継承していくとともに、人口減少や高齢化、デジタル化の進展など社会情勢の変化に対応しながら取り組む必要があります。

6. なばり新時代戦略（デジタル田園都市構想総合戦略版）の取組と今後の方向性

【第2期総合戦略からデジタル田園都市構想総合戦略版へ】

「名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の3つの重点プロジェクトは、「なばり新時代戦略（デジタル田園都市構想総合戦略版）」の2つの施策の柱へと引き継ぎます。可能な限り人口減少を食い止めるべく「人口減少を和らげる施策」、人口減少になった場合においても持続できるまちを目指す「人口減少を見据えた施策」として取組を進めていきます。



【令和7年度の主な取組】

人口減少を和らげる施策

●公民連携の取組推進と外部人材の活用

地域課題の解決や新たな価値を創出するため、公民連携窓口を設置。また、地域おこし協力隊や地域活性化起業人など新たな外部人材を積極的に取り入れます。

●名張あんしん出産・子育て応援事業

妊婦や子育て世帯が安心して出産、子育てができるよう、これまで取り組んできた名張版ネウボラの拡充を図ります。

など

人口減少を見据えた施策

●定住自立圏共生ビジョンの見直し

定住自立圏域が目指す将来像を定めた共生ビジョンを見直し、幅広い分野で相互に補完・協力する広域的な関係づくりを強化します。

●公共交通施策

人口減少に伴う最適な公共交通の整備を目指し、地域型コミュニティバスのオンデマンド方式を組み込んだ交通ネットワークの検証を進めます。

など